



作者：小栗こぐり

森の子ども図書コーナー No.151

交流サロンぽすと内



『あっ！みーつけた!!』  
くすのきしげのり／作  
大島妙子／画  
(光村教育図書)

学校からの帰り道、ぼくは、ものすごいものを見つけた。「この石、ライオンみたいや。そうや、ええこと考えた！ポケットに入れて持って帰って色を塗ると「ガオー！ほら、強そうなライオンやで」次の日は、あくびをしているカバに似ている小石を見つけた。雪の日も風の日も晴れの日も雨の日も毎日見つけた石を拾って帰った。ある日、石をポケットに入れておいたら、ポケットが破れてしまった。お父ちゃんに石を拾ってきたわけを泣きながら話したら、長い時間をかけてポケットを直してくれた。さて、そのわけとは？明日はここにいくなかな？



／今月は14冊！／

100円プラバンでゆるかわ動物の手作りアクセサリー (AZUCO) / ふわっふわのスフレパンケーキ (サウスポイント) / ゆかいないきものマル秘図鑑 (ぬまがさわたり) / 論理的思考を鍛える33の思考実験 (北村良子) / ウィステリアと三人の女たち (川上未映子) / やまがた百名山 (山形県みどり自然課) / マジ文章書けないんだけど (前田安正) / カーネーション (徳永圭) / まるごと冷凍弁当 (MAYA) / さざなみよる (木皿泉) / 魔力の胎動 (東野圭吾) / 日の出 (佐川光晴) / つながりの蔵 (柳月美智子) / あやかし草紙 (宮部みゆき)



『論理的思考力を鍛える33の思考実験』  
(北村良子 / 彩図社)

実験と言っても、道具やそれを扱う場所を必要とする実験ではなく、ある特定の条件の下で考えを深め、頭の中で推論を重ねながら自分なりの結論を導き出していく、思考による実験です。特にビジネスの場でも欠かせない論理的思考力を鍛えるために思考実験は役に立ちます。トロツク問題、ありえない計算式等掲載。



『つながりの蔵』  
(柳月美智子 / 角川書店)

小学五年生の夏。遼子と美音は四葉の家でよく遊ぶようになった。四葉の家は幽霊屋敷という噂が立つほど、広大な敷地に庭園、広い縁側、隠居部屋や祠、そして古い蔵のある家だった。家族とのことや友情など、どうにもできない思いを抱えた少女たちは、「蔵での出来事」をきっかけに絡まった糸をほどいていく。

山形大学の地域連携型サークル「Team道草」  
道草だよりでは、彼らの町内での活動を紹介します！  
「金山町×大学生」で産まれる新たな可能性を模索します

道草便り Vol.3



今回も偶然出会った方々と楽しい時間を過ごしました

6月2日、七日町でくららんぼ農家を営んでいる横山さんを訪ねました。お話を聞かせて頂くのと、沢山の愛情を込めてくららんぼを作っていること、そのくららんぼが金山の方に愛されていることがとても伝わってきました。村山地域よりも2週間ほど遅れて収穫できるそうです。今年はまだ収穫量が見込めないそうです。残念ですが、金山のくららんぼをぜひ食べてみたい！と感じました。その後は七日町商店街を取材。お店の中で近所の方とお話している女性を発見！昔の商店街の懐かしく様子を教えてくださいました。最後はまちの仕立て屋さんにお邪魔。今回も地域に密着した一生涯懸命な姿に出会うことができました。大学生で何かできないかなと考えさせられる取材となりました。

ぶんげい

金山杉俳句会報 第四十七回

- |        |                                 |        |                                 |
|--------|---------------------------------|--------|---------------------------------|
| 星川 きえ子 | 散る桜淡きおもいを万象に<br>桜月寝返りうてば闇の中     | 菅越 庄司  | 夫逝きて幾とせなるや燕の巢<br>母の日や笑ひ崩れし盆の菓子  |
| 岸 あき子  | 朝膳に木の芽の香り山を呼ぶ<br>夏近し紙ふうせんで遊ぶ子ら  | 荒屋 関   | 遅しやひっそり咲きし九輪草<br>風止みて夜の静寂を雨蛙    |
| 高橋 洋子  | 行く程にかげろう深き山路かな<br>老樹なる垂桜の華やげる   | 七日町 青柳 | 薫風や水源けやき大樹なる<br>ゑんど豆器の中で逃げ廻り    |
| 鵜沼 よし子 | 万緑や焼印薄れし宿の下駄<br>母よりも父の好みし柏餅     | 七日町 柴田 | 梅雨入かな知人の見ゆる計報欄<br>紀州路へ思ひの馳せる夏詣  |
| 伊藤 敏子  | 戸締りを確かめに出る春の月<br>鳥海山すこしかすんで田植かな | 羽場 坂本  | 夏めくや正午は白の花時計<br>卯の花のこぼれつながらる貴船川 |
| 阿部 サタエ | 腕組んでのぼる土手道落花かな<br>春の海親馬子馬影うかべ   | 上 台 阿部 | 水仙のあたま豪華に地をなめる<br>春耕や年毎おとる八十路越え |
|        |                                 | 七日町 村松 | 夕餉とて孫を酒肴に暑気払ひ<br>さなぶりや兄弟会は那須の宿  |
|        |                                 | 森風     | 白あやめ供え読経の朝かな<br>峰雲や卒寿の関も間近にて    |